

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	ECC 国際外語専門学校
設置者名	学校法人山口学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
国際ビジネス専門課程	アジア言語学科 アジア言語コース	夜・通信	1995	160	
	エアライン学科 エアラインコース	夜・通信	1950	160	
	こども教育研究 学科こども英語 コース	夜・通信	1890	320	
	こども教育研究 学科こども教育 コース	夜・通信	1830	320	
	ホテル・観光学科 トラベルコース	夜・通信	1800	160	
	ホテル・観光学科 ホテルコース	夜・通信	1800	160	
	国際キャリア学 科海外インター ンシップコース ※1	夜・通信	6480	240	
	国際キャリア学 科国際エアライ ンコース	夜・通信	900	240	
	国際留学学科語 学留学コース	夜・通信	900	160	
	国際ビジネス学 科国際ビジネス コース※2	夜・通信	6840	160	

	国際ビジネス学科 大学編入コース※3	夜・通信	6660	160	
	総合英語学科 総合英語コース※4	夜・通信	3060	160	
<p>(備考)</p> <p>※1 国際キャリア学科海外インターンシップコースは希望業種による科目選択制となり、科目を合算した時間数を記載</p> <p>※2 国際ビジネス学科国際ビジネスコースは希望業種による科目選択制となり、科目を合算した時間数を記載</p> <p>※3 国際ビジネス学科大学編入コースは、科目選択制となり、科目を合算した時間数を記載</p> <p>※4 総合英語学科総合英語コースは、レベルにより受講科目が変動し、科目を合算した時間数を記載</p>					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ：<http://www.ecc.ac.jp/syllabus/kokusai/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	ECC 国際外語専門学校
設置者名	学校法人山口学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-about201906.pdf>

6 ページ参照

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元大阪府議会議員	2019年4月 1日～2021 年3月31日	学校経営に関する こと
非常勤	税理士	2019年4月 1日～2021 年3月31日	財務に関すること
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	ECC 国際外語専門学校
設置者名	学校法人山口学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。	
授業計画書の公表方法	<a href="http://www.ecc.ac.jp/syllabus/kokusai/">http://www.ecc.ac.jp/syllabus/kokusai/</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

#### 第4章 単位認定

第7条 (単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

(1) 授業出席率が75% (アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%) 以上であること。

(2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条 (総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条 (平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

#### 第10条 (学期末試験・評価)

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く)

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)  
 山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。また、Web サイトでも公開している。

#### 第4章 単位認定

##### 第11条 (成績評価ランク)

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。  
 また、2020年度より実施予定の文部科学省による、「高等教育無償化の制度」適用条件の判定材料として、グレードポイントを設ける。

総合評価点	ランク	グレードポイント	可否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

##### 2 GPA の適用

GPA とは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPA を適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」の GP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1 単位あたりの成績の平均値である。

##### 3 GPA の算出方法

$$\frac{(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0)}{\text{総履修登録単位数}}$$
  
 ※特別単位は GPA の計算に算入されない。

客観的な指標の算出方法の公表方法	HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開 <a href="https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/pdf/handbook2020.pdf">https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/pdf/handbook2020.pdf</a>
------------------	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教育目的に基づいたディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Web サイトでも公開している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開  <a href="https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/pdf/handbook2020.pdf">https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/pdf/handbook2020.pdf</a></p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC 国際外語専門学校
設置者名	学校法人山口学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学・ビジネス専門	エアライン学科 エアラインコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,710 単位時間/単位	1,800 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	
			1,800 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
232人		212人	0人	9人	16人	25人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準



<p>(概要)</p> <p>【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。</p> <p>【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
121人 (100%)	0人 (0%)	119人 (98.3%)	2人 (1.7%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>ANA大阪空港、ANA沖縄空港、ANA関西空港、FDA、Kスカイ、ジェイエア、ジェットスター、JALスカイ、JALスカイ大阪、CKTS、シンガポール航空、スカイマーク、ソラシドエア、ドリームスカイ名古屋、日本航空、羽田空港サービス他</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>就職関連授業(ES・筆記・面接対策、エアラインリサーチ、プレゼンテーション、エアラインTOEIC、他)、各種ガイダンス、空港・施設見学、インターンシップ、学内企業説明会/選考会他</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>実用英語技能検定(準1級)3名、実用英語技能検定(2級)57名、実用英語技能検定(準2級)53名、実用英語技能検定(3級)3名、サービス接遇検定(準1級)89名、サービス接遇検定(2級)88名、サービス接遇検定(3級)109名、Word文書処理技能認定試験(3級)77名、Excel表計算処理技能認定試験(3級)2名、アマデウスシステム検定試験(specialist)116名、マナー・プロトコール検定(2級)1名、マナー・プロトコール検定(3級)82名、ユニバーサルマナー検定(3級)117名</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
246人	6人	2.4%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更、体調不良、意欲低下</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>担任による個人面談、出席管理、保護者(来校、TEL)会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学・ビジネス専門	ホテル・観光学科 ホテルコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,710 単位時間/単位	1,800 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,800 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
66人		53人	0人	2人	6人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
（概要） 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
（概要） 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27人 (100%)	0人 (0%)	25人 (92.6%)	2人 (7.4%)
（主な就職、業界等） 京都ブライトンホテル、奈良ホテル、パークハイアット東京、ハレクラニ沖縄、ハイアットリージェンシー大阪、パレスホテル、阪急阪神ホテルズ、ホテルオークラ東京、森ビルホスピタリティコーポレーション、HOTEL THE MITSUI KYOTO 他			
（就職指導内容） 就職関連授業（Hotel English、プレゼンテーション、ホテルエコーディネート、筆記試験対策）、各種ガイダンス、ホテル見学会、インターンシップ、学内企業説明会他			

<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>実用英語技能検定(2級) 17名、実用英語技能検定(準2級) 6名、レストランサービス技能検定(3級) 31名、サービス接遇検定(準1級) 24名、サービス接遇検定(2級) 25名、サービス接遇検定(3級) 28名、サービス介助士 29名、Word文書処理技能認定試験(2級) 1名、Word文書処理技能認定試験(3級) 27名</p> <p>(備考) (任意記載事項)</p>
--

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59人	4人	6.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済的事情、意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者(来校、TEL)会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学・ビジネス専門	ホテル・観光学科 トラベルコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,710 単位時間/単位	1,800 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,800 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
26人		25人	1人	1人	3人	4人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
(概要) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

学修支援等 (概要) 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HR を活用した全体指導、学生相談室常設
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	8人 (72.7%)	3人 (27.3%)
(主な就職、業界等) エイチ・アイ・エス、MK、ジャパンホリデートラベル、旅工房、リーベルホテル他			
(就職指導内容) トラベル就職対策、各種ガイダンス、ツアープランニング発表会、筆記/面接対策、業界セミナー、学内企業説明会/選考会他			
(主な学修成果(資格・検定等)) 実用英語技能検定(2級) 7名、実用英語技能検定(準2級) 7名、国内旅行業務取扱管理者試験 3名、サービス接客検定(準1級) 4名、サービス接客検定(2級) 7名、サービス接客検定(3級) 14名、Word 文書処理技能認定試験(3級) 7名、Excel 表計処理技能認定試験(3級) 5名、アマデウスシステム検定試験(specialist) 16名、旅行地理検定(海外2級) 10名、旅行地理検定(海外3級) 13名、旅行地理検定(海外4級) 14名、旅行地理検定(国内2級) 11名、旅行地理検定(国内3級) 6名、旅行地理検定(国内4級) 13名、国内旅程管理主任者試験 17名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状							
年度当初在学者数		年度の途中における退学者の数		中退率			
25人		1人		4.0%			
(中途退学の主な理由) 進路変更							
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者(来校、TEL)会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携							
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	語学・ビジネス専門	こども教育研究学科 こども教育コース		○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
4年	昼間	3,420 単位時間/単位	講義	演習	実習	実験	実技
			2,640 単位時間/単位	960 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			3,600 単位時間/単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
100人	51人	0人	3人	24人	27人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
（概要） 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、54単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
（概要） 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21人 (100%)	0人 (0%)	20人 (95.2%)	1人 (4.8%)
（主な就職、業界等） 保育士（インターナショナルスクール含む）、小学校教諭（大阪市）、幼稚園教諭、講師登録他			
（就職指導内容） こども保育就職対策（幼稚園/保育園/インターナショナルスクール受験用）、小学校教員採用試験対策（ES/一般教養/面接他）、公務員試験対策、ビジネスマナー			
（主な学修成果（資格・検定等）） 実用英語技能検定（準1級）1名、実用英語技能検定（2級）2名、実用英語技能検定（準2級）1名、小学校教諭1種免許11名、保育士資格21名、幼稚園教諭1種免許21名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

72人	6人	8.3%
(中途退学の主な理由) 経済的事情、進路変更、意欲低下、単位不足		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者（来校、TEL）会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学・ビジネス専門	国際ビジネス学科 国際ビジネスコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,710 単位時間/単位	1,800 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,800 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
224人		181人	123人	2人	20人	22人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
（概要） 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
（概要） 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

79人 (100%)	0人 (0%)	62人 (78.5%)	17人 (21.5%)
(主な就職、業界等) 日航ホテル大阪、ホテルモントレ(株)、(株)旅行綜研、(株)日本旅行、(株)Kスカイ、京都インギオン、(株)フクナガエンジニアリング、大黒天物産(株)、(株)ユタックス、辰野(株)、(株)大阪真機器製作所、(株)竹延、(株)豊明、(株)リークラボ・ジャパン、白ハト食品工業(株) ANAカーゴ、喜一ホールディングス、近鉄エクスプレス、鴻池運輸、JALカーゴサービス、日本通運、阪急阪神エクスプレス、福山通運、郵船ロジスティクス他			
(就職指導内容) 就職対策授業(1年前後期、2年前期)、就職個別面談、学内説明会、合同企業説明会引率、学外会社見学会引率、インターンシップ、就労ビザセミナー 就職関連授業(業界研究、ES・筆記・面接対策、他)、各種ガイダンス、空港・施設見学、eラーニング説明会、インターンシップ、学内企業説明会/選考会、個別面談、受験サポート、ビジネスマナー他			
(主な学修成果(資格・検定等)) 実用英語技能検定(準1級)1名、実用英語技能検定(2級)19名、実用英語技能検定(準2級)9名、実用英語技能検定(3級)1名、通関士1名、日商簿記検定(3級)3名、国際航空貨物取扱士9名、サービス接客検定(3級)10名、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験(Ver.2016)上級4名、Word文書処理技能認定試験(3級)17名、Excel表計算処理技能認定試験(3級)15名、旅行地理検定(海外4級)15名、旅行地理検定(国内3級)1名、旅行地理検定(国内4級)8名、貿易実務検定(B級)9名、貿易実務検定(C級)18名、安全保障輸出管理実務能力認定試験(アソシエイト)3名、日本語能力試験N111名			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
175人	9人	5.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良、意欲低下、出席不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者(来校、TEL)会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	語学・ビジネス専門	国際ビジネス学科 大学編入コース	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,710 単位時間/単位	1,800 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位

			1,800 単位時間／単位		
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
320人	296人	0人	9人	36人	45人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
（概要） 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
（概要） 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
120人 (100%)	113人 (94.2%)	0人 (0%)	7人 (5.8%)
（主な就職、業界等） 愛媛大学法文学部(4名)/宇都宮大学国際学部(1名)/広島大学経済学部(1名)/広島大学法学部(2名)/香川大学経済学部(4名)/香川大学法学部(2名)/高知大学人文社会学部(2名)/滋賀大学経済学部(1名)/新潟大学法学部(2名)/神戸大学経済学部(1名)/大分大学経済学部(1名)/島根大学法文学部(3名)/奈良女子大学文学部(1名)/北海道大学法学部(1名)/名古屋大学法学部(1名)/和歌山大学経済学部(1名) 下関市立大学経済学部(1名)/京都府立大学公共政策学部(1名)/京都府立大学文学部(2名)/大阪市立大学文学部(2名)/大阪市立大学法学部(2名)/大阪府立大学地域保健学域(2名)/福知山公立大学地域経営学部(2名)/北九州市立大学 外国語学部(2名)/北九州市立大学 経済学部(1名)/北九州市立大学 文学部(2名)/北九州市立大学 法学部(1名)/名古屋市立大学人文社会学部(1名) 同志社大学経済学部(3名)/同志社大学商学部(2名)/同志社大学文学部(1名)/関西学院大学経済学部(1名)/関西学院大学総合政策学部(8名)/関西大学社会学部(2名)/関西大			



学商学部(1名)/関西大学政策創造学部(1名)/関西大学総合情報学部(6名)/関西大学文学部(2名)/関西大学法学部(1名)/関西外国語大学英語国際学部(7名)/関西外国語大学外国語学部(10名)/京都外国語大学外国語学部(1名)/京都産業大学外国語学部(1名)/京都産業大学文化学部(1名)/近畿大学経営学部(14名)/近畿大学経済学部(1名)/近畿大学文芸学部(1名)/近畿大学法学部(1名)/甲南大学法学部(1名)/龍谷大学経済学部(1名)/龍谷大学国際学部(2名)/龍谷大学社会学部(1名)/龍谷大学政策学部(2名)/龍谷大学文学部(2名)等
(就職指導内容) 基本英書講読、人文科学各分野入門授業・基礎ゼミナール、論文演習、各専門別英書講読(法学・政治政策学・経済学・経営学・社会学・心理学・言語文化・国際関係)、各専門別研究指導、専門演習、専門分野応用授業等及び、編入対策面接指導、志望理由書、研究計画書作成指導等
(主な学修成果(資格・検定等)) 実用英語技能検定(準1級)9名、実用英語技能検定(2級)116名、実用英語技能検定(準2級)47名、Word文書処理技能認定試験(3級)7名
(備考)(任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
277人	6人	2.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更、意欲低下、単位不足		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者(来校、TEL)会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学・ビジネス専門	総合英語学科 総合英語コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,710 単位時間/単位	1,800 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	
			1,800 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
262人		211人	0人	5人	9人	14人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。

成績評価の基準・方法
(概要) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
(概要) 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
101人 (100%)	0人 (0%)	73人 (72.3%)	28人 (27.7%)
(主な就職、業界等) エイチ・アイ・エス、オンワード樫山、近鉄エクスプレス、近鉄・都ホテルズ、空港専門大店、CKTS、ジャッツ関西、太閤園、トラベックスジャパン、日本通運、PVHジャパン、美濃吉、郵船ロジスティクス、横浜通商、ロイヤルパークホテル他			
(就職指導内容) 就職関連授業(業界研究、ES・筆記・面接対策、他)、各種ガイダンス、空港・施設見学、eラーニング説明会、インターンシップ、学内企業説明会/選考会、個別面談、受験サポート、ビジネスマナー他			
(主な学修成果(資格・検定等)) 実用英語技能検定(準1級) 4名、実用英語技能検定(2級) 60名、実用英語技能検定(準2級) 38名、工業英語能力試験(3級) 6名、サービス接遇検定(準1級) 6名、サービス接遇検定(2級) 7名、サービス接遇検定(3級) 2名、Word文書処理技能認定試験(2級) 2名、Word文書処理技能認定試験(3級) 57名、Excel表計算処理技能認定試験(2級) 4名、Excel表計算処理技能認定試験(3級) 50名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
196人	5人	2.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更、単位不足		

(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者（来校、TEL）会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携
---

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学・ビジネス専門	アジア言語学科 アジア言語コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,710 単位時間/単位	1,800 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,800 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
124人		111人	0人	4人	15人	19人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法 （概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準 （概要） 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等 （概要） 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
44人 (100%)	0人 (0%)	33人 (75.0%)	11人 (25.0%)
（主な就職、業界等） インターベル、オンワード樫山、共立メンテナンス、近鉄・都ホテルズ、コーセー化粧品、JR西日本フードサービスネット、トラベックスジャパン、ノブレスグループ、フェイラージャパン、PVHジャパン、プレミアムホテル、ラッシュ、リーベルホテル他			

(就職指導内容) 就職関連授業(業界研究、ES・筆記・面接対策、他)、各種ガイダンス、空港・施設見学、eラーニング説明会、インターンシップ、学内企業説明会/選考会、個別面談、受験サポート、ビジネスマナー他
(主な学修成果(資格・検定等)) 実用英語技能検定(2級) 4名、Excel表計算処理技能認定試験(2級) 5名、Word文書処理技能認定試験(3級) 25名、韓国語能力試験(3級) 31名、韓国語能力試験(4級) 35名、韓国語能力試験(5級) 22名、韓国語能力試験(6級) 6名、「ハングル」能力検定試験(3級) 8名、「ハングル」能力検定試験(準2級) 1名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
103人	8人	7.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済的事情、体調不良、単位不足		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者(来校、TEL)会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学・ビジネス専門	国際留学学科 語学留学コース	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,710 単位時間/単位	1,800 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1,800 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
43人		31人	0人	2人	2人	4人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
(概要) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準

(概要) 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
(概要) 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27人 (100%)	0人 (0%)	18人 (66.7%)	9人 (33.3%)
(主な就職、業界等) アバン、エイチ・アイ・エス、MK、コロニアスポーツウェアジャパン、DIESEL ジャパン、東京国際エアカーゴターミナル、ビッグモーター、PVHジャパン、プレミア アホテル、ホテルアゴラ、モクシー大阪本町、ロイヤルパークホテル他			
(就職指導内容) 就職関連授業(業界研究、ES・筆記・面接対策、他)、各種ガイダンス、空港・施設見学、 eラーニング説明会、インターンシップ、学内企業説明会/選考会、個別面談、受験サポ ート、ビジネスマナー他			
(主な学修成果(資格・検定等)) 実用英語技能検定(2級) 10名、実用英語技能検定(準2級) 15名、実用英語技能検 定(3級) 2名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 該当なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者(来校、TEL)会実施、欠席補講制度、学生 アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	語学・ビジネ ス専門	国際キャリア学科 海外インターンシッ	○	

		プロセス					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,550 単位時間/単位	2,700 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,700 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
159人	84人	0人	2人	2人	4人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
（概要） 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、54単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
（概要） 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
31人 (100%)	0人 (0%)	30人 (96.8%)	1人 (3.2%)
（主な就職、業界等） コンラッド東京、CKTS、セントレジス大阪、JALスカイ、ジャパンホリデートラベル、スカイマーク、日本航空、パークハイアット東京、ベトジェット、ホテルグランヴィア京都、HOTEL THE MITSUI KYOTO、ラ・スイート神戸他			
（就職指導内容） 就職関連授業（業界研究、ES・筆記・面接対策、他）、各種ガイダンス、空港・施設見学、eラーニング説明会、インターンシップ、学内企業説明会/選考会、個別面談、受験サポート、ビジネスマナー他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 実用英語技能検定（準1級）1名、実用英語技能検定（2級）17名、実用英語技能検定（準2級）14名、サービス接遇検定（準1級）21名、サービス接遇検定（2級）21名、			

サービス接遇検定(3級) 27名、Word 文書処理技能認定試験(3級) 27名、Excel 表計算処理技能認定試験(3級) 8名、アマデウスシステム検定試験(specialist) 16名、マナー・プロトコール検定(2級) 2名、マナー・プロトコール検定(3級) 11名、ユニバーサルマナー検定(3級) 16名、国内旅行業務取扱管理者試験 1名等 (備考) (任意記載事項)
---

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
104人	7人	6.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済的事情、意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者(来校、TEL)会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学・ビジネス専門	国際キャリア学科 国際エアラインコース	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,550 単位時間/単位	2,700 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2,700 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
72人		24人	0人	1人	3人	4人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
(概要) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、54単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得

しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
(概要) 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HR を活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 2020年4月開講のため実績なし			
(就職指導内容) 2020年4月開講のため実績なし			
(主な学修成果(資格・検定等)) 2020年4月開講のため実績なし			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 2020年4月開講のため実績なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者(来校、TEL)会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		



## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
エアライン	80,000 円	960,000 円	190,000 円	
国際ビジネス	80,000 円	960,000 円	190,000 円	
ホテル・観光	80,000 円	960,000 円	190,000 円	
こども教育 研究	80,000 円	860,000 円	190,000 円	
国際キャリア	80,000 円	960,000 円	190,000 円	
アジア言語	80,000 円	960,000 円	190,000 円	
総合英語	80,000 円	960,000 円	190,000 円	
国際留学	80,000 円	1,300,000 円	190,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/pdf/kokusai-self-20190801.pdf">https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/pdf/kokusai-self-20190801.pdf</a>
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 本校の「学校評価実施規定」に学校関係者評価について以下のように定めている。 (学校関係者評価) 第 11 条 校長は自己評価の結果を本校の関係者により組織した学校関係者評価委員会 (以下「関係者委員会」という。) に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営に活用しなければならない。 (関係者委員会の構成) 第 12 条 関係者委員会は、次に掲げる区分から校長が委託する委員により構成する。 (1) 関連業界等関係者 2 名以上 (2) 卒業生 1 名 (3) 保護者または地域関係者 1 名 (4) その他校長が必要と認める者 1 名 2 委員の任期は、2 年とする。ただし再任を妨げない。 (関係者委員会の運営) 第 13 条 関係者委員会に委員長を置く。 2 関係者委員会は、校長が招集し、委員長がその運営にあたる。 3 校長が必要と認める場合は、関係者委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。 4 関係者委員会は、委員の過半数が出席しなければ開会することができない。 5 関係者委員会は、自己評価の進捗状況に応じ次年度の計画策定までの間に開催しなければならない。 (報酬及び費用弁償) 第 14 条 関係者委員会の報酬及び費用弁償については、本校が定める基準により支払う。 (学校関係者評価の評価結果) 第 15 条 委員長は、関係者委員会による評価結果をまとめ、報告書を作成しなければならない。

ならない。

(学校関係者評価の活用)

第16条 教職員は、学校関係者評価の結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない。

(学校関係者評価結果の報告)

第17条 校長は、学校関係者評価結果を理事会に報告しなければならない。

(学校関係者評価結果の公表)

第18条 校長は学校関係者評価結果について公表しなければならない。

(その他)

第19条 本規定に定めるもののほか本校の学校評価に関し必要な事項は、校長が別に定める。

本校ではこの「学校評価実施規定」に則り、年間1～2回、学校関係者評価委員会を開催、学園ホームページ上に公開している。

### 【主な評価項目】

#### (1) 教育理念・目標

- ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
- ・学校における職業教育の特色は何か
- ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
- ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

#### (2) 学校運営

- ・目的等に沿った運営方針が策定されているか
- ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- ・人事、給与に関する規定等は整備されているか
- ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか
- ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか

#### (3) 教育活動

- ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
- ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。
- ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか
- ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか
- ・授業評価の実施・評価体制はあるか
- ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
- ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保してい

るか

- ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか

- ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか

- ・職員の能力開発のための研修等が行われているか

#### (4) 学修成果

- ・就職率の向上が図られているか

- ・資格取得率の向上が図られているか

- ・退学率の低減が図られているか

- ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

- ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

#### (5) 学生支援

- ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか

- ・学生相談に関する体制は整備されているか

- ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

- ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか

- ・課外活動に対する支援体制は整備されているか

- ・学生の生活環境への支援は行われているか

- ・保護者と適切に連携しているか

- ・卒業生への支援体制はあるか

- ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか

- ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

か

#### (6) 教育環境

- ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

- ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

- ・防災に対する体制は整備されているか

#### (7) 学生の受入れ募集

- ・学生募集活動は、適正に行われているか

- ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

- ・学納金は妥当なものとなっているか

#### (8) 財務

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

- ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

- ・財務について会計監査が適正に行われているか

- ・財務情報公開の体制整備はできているか

#### (9) 法令等の遵守

- ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

- ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

- ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか

- ・自己評価結果を公開しているか

#### (10) 社会貢献・地域貢献

- ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

- ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

- ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか

<p>(11) 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul> <p>【評価結果の活用方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職後の継続率についてのご指摘を基に、卒業生の追跡調査や同窓会組織の発足を進めている。</li> <li>・卒業生委員の方から、卒業後の関係性の強化についてのご意見をいただき、校友会（同窓会）を発足し、コミュニティの拡大をはかっている。</li> <li>・退学防止策として、経済面の支援体制についてご意見をいただき、公的な奨学金の他、学内での奨学金制度の発信をはかっている。</li> <li>・留学生受け入れに関してご意見をいただき、グローバル化にむけて、より日本人学生と留学生が入学から卒業後もつながりをもてる機会の創出に取り組んでいく。</li> </ul>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人日本添乗サービス協会	令和元年4月1日～令和3年3月31日（2年）	業界団体等委員
セントレジスホテル大阪	令和元年4月1日～令和3年3月31日（2年）	企業等委員
社会福祉法人日本ヘレンケラー財団	令和元年4月1日～令和3年3月31日（2年）	業界団体等委員
済美地域社会福祉協議会	令和元年4月1日～令和3年3月31日（2年）	地域関係者
株式会社 TEI	令和元年4月1日～令和3年3月31日（2年）	企業等委員
立命館高等学校	2018年4月1日～令和2年3月31日（2年）	高校教員
株式会社Kスカイ	令和元年4月1日～令和3年3月31日（2年）	企業等委員
佛教大学	令和元年4月1日～令和3年3月31日（2年）	大学教員
学校関係者評価結果の公表方法		
<p>（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）</p> <p><a href="https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/pdf/kokusai-school-20190907.pdf">https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/pdf/kokusai-school-20190907.pdf</a></p>		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://kokusai.ecc.ac.jp/>